

紀南病院 研修医通信第46号

2014年5月号 (平成26年5月30日発行)

(今回は会話方式でお届けします。)

田中：東京大学医学部附属病院初期研修医 静岡県富士市出身

小嶋：市立四日市病院初期研修医 愛知県東海市出身

倉田：三重大学医学部附属病院初期研修医 三重県津市出身

倉田「1か月お疲れ様です。突然やけど、何が一番楽しかった？」

田中「それ言い出したら、飲みの話になっちゃうよw」

小嶋「研修医通信らしく研修でよかった点は？悪かった点でも・・・w」

倉田「そーやなー・・・。往診とか神島に行けて、日頃経験できないことができたことかな。」

田中「マジメかっ！！w」

倉田「え？マジメだし！w」

田中「じゃあ、私はやっぱり指導医の先生方が素晴らしいすぎた点かな？」

倉田「間違いない！」

小嶋「そーやなーよかった点・・・。印象に残ったのは、環境の変化が新鮮やったな。まず患者さんの言葉がわからなかったな。」

倉田「そーなんや・・・。」

田中「私、言っていることが9割方わかんない人もいた。まあ、でも気持ち伝わればいいよね！」

小嶋・倉田「きれいに終わらせましたねw」

倉田「観光はどこがよかった？」

小嶋「俺は勝浦の温泉かな！」

倉田「熊野三山制覇はよかったな！」

田中「私はその期間、引越しか床にふしてる状態だったからな・・・」

小嶋「確かに取りつかれてたよねw」

倉田「お守り買ってきたやんw」

田中「ありがとー♪これからは、良い方の神様にとりつかれたいなあー。」

小嶋「そーやなー。高熱で、胃腸炎で、携帯壊れて、バナナの皮で・・・」

田中「転びません！！バナナの差し入れありがとう！」

倉田「忘れてたw」

田中「でも、私も千枚田行ったよ！ちょー楽しかったね！！」

倉田「日焼け痛かった・・・。お風呂痛かった。」

田中「腕と首だけでしょ！？どうせなら上裸で田植えすればよかったのにw」

小嶋・倉田「いやいやいや！！！」

田中「あとね、鬼ヶ城がかっこよかった！！」

小嶋「完全に、火サスの舞台だったな、あれ。w」

倉田「海に落ちる人おらんのかな？」

田中「むしろ、すごいところで釣りしてるおじさん達居たよね。」

小嶋「新宮へは結局みんなで夜にご飯食べに行ったね。」

田中「ひげも錦もひょうたんも師子王も絶品だったねー。」

倉田「じゃーあー、最後にこの研修で得たものを挙げてこ！」

小嶋「酒飲み仲間の連絡先。」

田中「それは、間違いなく宝物ですなw」

倉田「研修終わってからも、飲み会せな！行けなかった伊勢観光もね！」

小嶋「呪われた舞さんによって中断せざるを得なかった、一泊二日の例の旅ね。」

田中「誠に申し訳ございませんでした。次回必ず。。。マジメに答える・・・やっぱり、入院患者さんの治療方針とか考えたり、日々の指示を実際に出したりすることが、大学病院だとほとんど無いから、一通りの流れを実際にやらせてもらえたのは、すごく勉強になったなーって思うなあ。野田先生ありがとうございました！！」

倉田「そーですねー。紀南病院では病気と向き合うだけでなく、患者背景を考えて、最適な治療選択をする考え方かな。大学病院だと治療や検査での入院が多くて、治すのがメインやったからね。本当に辻先生にはお世話になりました。」

小嶋「介護保険や住所など社会的背景を踏まえて退院後のフォローまで考慮することの大切さを教りました。あと先生方が日常的に治療方針の相談をし合っていて、いかにうまく他の先生へ説明をするかってめちゃくちゃ重要な要素だなあと。そのあたりの御指導、中川先生をはじめ、先生方には大変お世話になりました。」

倉田「ヤバイ！そろそろ通信のページがなくなってきた！！では、この辺で終わらしましょうか。」

三人「本当に貴重な経験を多数させていただきありがとうございました。この経験を糧に頑張ります！」



鬼ヶ城



熊野の山



クジラの刺身

丸山千枚田

三重と和歌山の県境

